

## 第4章 キリスト教式



ここ数年、日本で最も人気がある結婚式のスタイルがキリスト教式で、結婚式全体の約6割を占めている。キリスト教の教会で式を挙げるには、新郎新婦のいずれかが信徒であることが原則となっているが、信徒の紹介や結婚講座の受講、結婚式前の礼拝参加などを条件に挙式を許可する教会も多い。

キリスト教の教派ではカトリックとプロテスタントの2派が代表的である。一般にカトリック教会は戒律が厳しいため、ほとんどの教会では信徒以外の結婚式を行わないとされる。プロテスタントの教会は信徒以外でも結婚式を認めるところが多く、ホテルや専門式場のチャペルでは、プロテスタントの式次第に則って式が行われていることが多い。

### 1 カトリックとプロテスタント

カトリックは「ローマ・カトリック教会」とも呼ばれ、約10億人の信徒がいるとされる。聖書と並んで聖伝や教会の権威を重んじる教義主義をとる。戒律は厳しく、離婚は許されず、したがって再婚も許されない。

プロテスタントは「聖書のみ」に従うとする聖書主義をとり、ルーテル教会、バプテスト教会、カルヴァン派などの諸派がある。結婚はふたりの愛によって成立するという考えで、離婚・再婚も可能。カトリックとプロテスタントは教会用語や呼称に違いがあるので、注意が必要である。

#### 【カトリックとプロテスタントのブライダルにおける違い】

	カトリック (旧教)	プロテスタント (新教)
司式者	神父	牧師
祈りの場所	聖堂 (みどう)、祭壇	礼拝堂、祭壇
祈りの集会	ミサ	礼拝
神に捧げる歌	聖歌	賛美歌
十字架	キリストのついた十字架が多い	十字架のみ
洗礼	必ず受けなければならない	受けなくてもよい
離婚	認められない (離婚歴がある場合、挙式できない)	正当な理由があれば認められる

#### チャーチ (church) とチャペル (chapel)

英語のチャーチは、基本的に教会の建物のこと。キリスト教の教会や聖堂をはじめ、キリスト教以外の教会にも使われる。チャペルとは、学校や病院などの建物にある礼拝堂のこと。教会の中でも小さな礼拝場はチャペルと呼ばれる。

## レース

糸で模様などを編み込んだり、刺繍したりした布地。繊細に模様を編み込んだリバーレース、化学処理を施したケミカルレース、チュールなどに箔糸を刺繍したエンブroidアルレースなどがある。

## 〈4〉洋装小物

ウエディングドレスを着用した際に必要になる正装用の小物には、以下のようなものがある。それぞれに種類があり、ブライダルテーマやドレスのデザインにあわせて選定するのがポイントとなる。

### ベール

結婚式のときに着用し、一般にパーティではつけないが、ベールアップした状態でたらししておくケースもある。ドレスの裾よりも長いものが正式とされる。ベールは長さによって様々な種類があり、短いものからショルダー、エルボー、フィンガーチップ、ワルツ、チャペル、カテドラルと呼ばれている。

### グローブ

本来はキリスト教教会で肌を隠すためにつける目的があったが、人前式や披露宴でもドレスにコーディネートすることが多い。ロンググローブが正式とされ、長さは40、50、60cmなどのサイズがある。

### パニエ

ボリュームのあるドレスを着用する場合に、スカートの下にはく下着のこと。レンタルドレスの場合は、セットになっていることが多い。

### 靴・バッグ

靴はドレスと同じ生地（白サテンなど）のものであつらえるのが正式とされる。現在では、ドレス丈や花婿の身長にあわせて花嫁の身長を調節する意味合いがあるため、ドレス店などで適切な高さのものをレンタルする場合も多い。

バッグを持つ場合も、布製が正式とされている。格式の高さやマナーを重視するお客様に対しては、皮革製品のバッグは提案しないほうがよい。

### ブライダルインナー

肩ひもがなく、胸の位置を上げ、ウエストを絞る専用のインナーを着用することが多い。花嫁が妊娠中の場合は、ブライダル専用のインナーではなくマタニティ用のインナーを使用する場合もある。下着類は花嫁が購入して用意するが、衣装店でアドバイスを受けたり、購入できることも多い。ストッキングは肌色のものを着用する。靴をレンタルする場合があるので、靴擦れを防ぐ目的もある。